



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「あなたは他人には教えながら、自分には教えないのですか」

聖書(ローマ書2章21節)

牧師 河合裕志

パウロは同胞のユダヤ人に対して「あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、その御心を知り、律法によって教えられて何をなすべきかをわきまえています」と述べる。ユダヤ人は自分達には律法が与えられていることを誇っていた。律法とは十戒を頂点とする様々な戒め、教え、規則のこと。あるべき神との関係、人と人との関係が定められている。

そして彼らは自分達は「盲人の案内者、闇の中にいる者の光、無知な者の導き手、未熟な者の教師であると自負」していた。彼らにはユダヤ人以外の異邦人は盲人、闇中の者、無知・未熟な者とうつついていた。この連中に教えてあげねば。案内者、光、導き手、教師となって人の踏むべき道を示してあげねば。こう彼らは考え実践した。特にユダヤ人の中でも律法学者やファリサイ派の人々が熱心だった。彼らは律法の専門家として専心これに当たった。

こうした彼らの姿を見てパウロは言った。「それならば、あなたは他人には教えながら、自分には教えないのですか。『盗むな』と説きながら、盗むのですか。『姦淫するな』と言いながら、姦淫を行うので

すか」。

これは誠に痛い。ユダヤの人々にとって、律法の指導者らにとって爆弾のような言葉。ガーンとやられた感じ。あるいは水を頭からザブンと浴びせられた思い。なんとも赤面の至り。

このような歯に衣を着せぬ言い方はパウロでなければよくなることの出来ないところだけども、実はイエスがそうだった。当時のユダヤ社会におけるエリート、指導者である律法学者やファリサイ派の人々にイエスは単刀直入に言った。あんた方は偽善者ですよ、と。(その様子はマタイ福音書23章に詳しい)。

ところでこのパウロの言葉は今日次の人々に命中するのでは。牧師、宗教家、学校の先生…およそ人を教える立場にある人にぴったりあてはまるのでは。世の親御さんにも。牧師を筆頭に上げたのは毎週日曜礼拝で説教しているから、聖書の教えを説き明かしているから。

誠に教える前に自己吟味が迫られる。まず自分を教えているか、教えに沿って生きているか、悪事を働いていないか。イエスによる罪の赦しと罪の清めを願わざるを得ない。そう願いつつ教える務めを果たして行ければ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時